

# Happy Hour

ハッピーアワー



鹿児島大学 × 鹿児島コミュニティシネマ PROJECT vol.4

いま、  
映画とは何か。

濱口竜介との対話

 gardens' Cinema

2016 1/28(木) ~ 31(日)

# いま、新たな映画の荒野のなかで、

2016年1月28日(木)19:00～21:00 鹿児島大学法文学部1号館201教室

入場無料・申込不要 (学外の方もご参加いただけます)



## PASSION (2008/115min/HD)

仲間とのパーティで結婚を発表した男と女。だがその直後、男は昔の浮気相手に再会する。だがその女性は男の友人とかつて関係を持っており……。6人の男女の恋模様と、人間関係の深遠な揺らぎが、夜の横浜を舞台に見事な演出で描かれてゆく。東京フィルムメックス2008コンペティション部門出品。サン・セバスチャン国際映画祭2008出品作品。

製作：東京藝術大学大学院映像研究科 プロデューサー：藤井智  
監督・脚本：濱口竜介  
撮影：湯澤祐一 照明：佐々木靖之 録音：草刈悠子  
美術：安宅紀史、岩本浩典 編集：山本良子 助監督：野原位  
出演：川井青葉、岡本竜汰、占部房子、岡部尚、渋川清彦

2016年1月29日(金)17:00～21:30 (途中休憩あり) 鹿児島大学法文学部1号館201教室

入場無料・申込不要 (学外の方もご参加いただけます)



## 親密さ (2012/255min/HD)

『親密さ』という演劇を作り上げていく過程をフィクションとして演じる前半と、実際の上演を記録し映画として構成した後半との二部構成による本作。令子と良平は新作舞台上演を間近に控えた演出家である。コンビで演出をする彼らのやり方は、段々と限界に近づいているように見える。稽古を繰り返す間に、2人の日常、想い、そして社会はゆっくりとだが、確実に変化していく。舞台は始まり、やがて終わる。まるでほんのひと時、電車と電車が並走して別れ去るまでの間のような、彼らの生活。美しすぎるラスト、必見！

製作：ENBUゼミナール  
監督・脚本：濱口竜介  
撮影：北川喜雄 編集：鈴木宏 整音：黄永昌 助監督：佐々木亮介  
制作：工藤渉 劇中歌：岡本英之  
出演：平野鈴、佐藤亮、伊藤綾子、田山幹雄



## 濱口 竜介 (はまぐち・りゅうすけ)

1978年、神奈川県生まれ。東京大学文学部卒業後、映画の助監督やテレビ番組のADを経て、東京藝術大学大学院映像研究科に学び、修了制作『PASSION』(2008)が国内外の映画祭で高い評価を得る。東日本大震災後、東北に拠点を置き、被災者へのインタビューから成る『なみのおと』『なみのこえ』、東北地方の民話の記録『うたうひと』(共同監督：酒井耕、2011～2013)を制作。2012年、4時間を超える長編『親密さ』を完成させ、東京・渋谷で「濱口竜介レトロスペクティブ」を開催、2週間のレイトショーで1500人の動員を記録する。2013年、染谷将太を主演にむかえた新作『不気味なものの肌に触れる』を引っ提げ神戸に移住。関西のミニシアター5館を横断する特集上映「濱口竜介プロスペクティブ」を開催。自ら企画した「即興演技ワークショップ in Kobe」の参加者を演者にむかえ長編劇映画『ハッピーアワー』を監督。本作は2015年のロカルノ国際映画祭で主演の4人が最優秀女優賞を受賞し、脚本へのスペシャル・メンションも授与された。また、ナント3大陸映画祭では銀の気球賞(準グランプリ)と観客賞をW受賞するという快挙を成し遂げた。

# 濱口竜介が惹き起こす奇跡を観よ。

2016年1月30日(土)13:00～16:00 鹿児島大学法文学部1号館201教室

『不気味なもの肌に触れる』上映＋トークセッション

濱口竜介（映画監督）×中路武士（映画研究者）

映画に刻み込まれた一つ一つの言葉と声、そして身体と情動。そのどれもが世界の光景を、人間の生を煌めかせ、観る者の心を震わせる。監督・濱口竜介が手がける神秘的な映画は、どのように生まれるのか。そして、デジタル化された映像が社会を覆い尽くすなか、いま、映画とは何か、映画制作という創造行為とは何か。フィクションと現実の境界のただなかで、野心的な独自の方法で、挑発的に映画を拡張しつづける濱口竜介とともに考える。



(C) LOAD SHOW,fictive

## 不気味なもの肌に触れる

(2013/54min/HD)

千尋（染谷将太）は父を亡くして、腹違いの兄・斗吾（渋川清彦）が彼を引き取る。斗吾と彼の恋人・里美（瀬戸夏実）は千尋を暖かく迎えるが、千尋の孤独は消せない。千尋が夢中になるのは、同じ年の直也（石田法嗣）とのダンスだ。しかし、無心に踊る彼らの街ではやがて不穏なできごとが起こりはじめる…。

製作：LOAD SHOW,fictive

監督：濱口竜介 脚本：高橋知由

撮影：佐々木靖之

出演：染谷将太、渋川清彦、瀬戸夏実、水越朝弓、河井青葉、村上淳

【時間】 13：00～16：00（開場12：30）

13：00～13：54 『不気味なもの肌に触れる』 上映

14：00～16：00 トークセッション

【料金】 無料

【申込】 不要（学外の方もご参加いただけます）

【主催】 鹿児島大学平成27年度学長裁量経費「地域自治体および企業等との連携強化と法文チャレンジ科目（仮称）の試行・構築」（法文ディープアクティブラーニング事業4「対話型・地域連携型の映画・映像文化教育拠点の形成」）

【共催】 (社)鹿児島コミュニティシネマ

【お問い合わせ】 鹿児島大学学術研究院法文教育学域法文学系（法文学部人文学科） 中路武士研究室

TEL/FAX 099-285-8909 E-mail nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp



## 中路 武士 (なかじ・たけし)

1981年、熊本県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得後退学。現在、鹿児島大学学術研究院法文教育学域法文学系（法文学部人文学科）准教授。専門は、映画論・メディア論。映画・映像文化を中心に、表象と技術、芸術と社会の相関関係について、メディア論的観点から研究をおこなっている。著書（共著）に、『デジタル・スタディーズ1 メディア哲学』『デジタル・スタディーズ2 メディア表象』（ともに東京大学出版会、2015）、『路上のエスノグラフィ——ちんどん屋からグラフィティまで』（せりか書房、2007）、『知のデジタル・シフト——誰が知を支配するのか？』（弘文堂、2006）など。

# 5時間17分に凝縮された「幸せな時間」。 ロカルノ国際映画祭主演女優賞受賞の大傑作！ ナント三大陸映画祭銀の気球賞（準グランプリ）・観客賞もW受賞！

2016年1月31日(日)10:00～17:00 ガーデنزシネマ(天文館マルヤガーデンズ7F)

『ハッピーアワー』トーク付上映

濱口竜介（映画監督）×伊地智啓（映画プロデューサー）

映画経験のない4人の女性たちの〈普通の生〉を、その〈存在の輝き〉を、「見事な肖像画」のように撮り上げ、ロカルノ国際映画祭で最優秀女優賞をもたらした濱口竜介。ナント三大陸映画祭では銀の気球賞（準グランプリ）と観客賞をダブル受賞するという快挙も果たした。「途方もなく野心的」と評された、その演出の方法論とは？ キャストやスタッフとのコラボレーションの仕方とは？ ——最強のインディペンデント映画作家の魅力に迫りたい。今年度最大の注目作『ハッピーアワー』を観ずして、「いま」の、そして「これから」の映画は語れない!!



(C)2013 神戸ワークショップシネマプロジェクト

## ハッピーアワー (2015/317min/HD)

30代も後半を迎えた、あかり、桜子、芙美、純の4人組は何でも話せる友達同士だと思っていた。純が1年に渡る離婚協議を隠していたと知るまでは.....。夫から逃れるため離婚裁判に臨む純を、3人はそれぞれ複雑な感情を抱えながらも見守っていた。勝ち目のない裁判を闘う純の姿は、いつしか彼女たち自身の人生を見つめなおすきっかけになっていく。つかの間の慰めに4人は有馬温泉へ旅行に出かけ楽しい時を過ごす。純の秘めた決意を3人は知る由もなかった。やがてくる長い夜に彼女たちは問いかける。——私は本になりたかった私なの？

製作・配給：神戸ワークショップシネマプロジェクト(NEOPA,fictive)

監督：濱口竜介 脚本：はたのこうぼう（濱口竜介、野原位、高橋知由）

撮影：北川喜雄 音楽：阿部海太郎

出演：田中幸恵、菊池葉月、三原麻衣子、川村りら

【時間】 10：00～17：00

10：00～11：47 『ハッピーアワー』 第一部上映

12：00～13：36 『ハッピーアワー』 第二部上映

13：50～15：45 『ハッピーアワー』 第三部上映

15：50～17：00 トーク

※1/30(土)は上映のみあります。

16:40～ 第1部(休憩10分)

18:40～ 第2部(休憩10分)

20:25～ 第3部(終了22：20)

【料金】 前売券一般 3,000円/学生 1,500円 ※要予約 (当日通し券 3,900円)

【主催】 ㈱鹿児島コミュニティシネマ

【共催】 鹿児島大学学術研究院法文教育学域法文学系（法文学部人文学科）中路武士研究室

【ご予約・お問い合わせ】 ガーデنزシネマ(鹿児島コミュニティシネマ)

TEL/FAX 099-222-8746 E-mail info@kagocine.net ホームページ <http://kagocine.net>



## 伊地智 啓(いじち・けい)

1936年、兵庫県生まれ。映画プロデューサー。60年に日活に入社。助監督を経て、71年にプロデューサーに転身。77年に日活を退社後は、セントラル・アーツを経て、78年にキティ・フィルム設立に参加。89年、岡田裕、佐々木史朗らとともにアルゴ・プロジェクト（後にアルゴ・ピクチャーズ）を創設。95年、ケイファクトリーを設立、社長に就任（2002年退社）。長谷川和彦監督『太陽を盗んだ男』や村川透監督『最も危険な遊戯』をはじめ、相米慎二監督『シンベン・ライダー』『セーラー服と機関銃』『お引越し』などを手掛けた。2004年、李相日監督の『69 sixty nine』をプロデュースし翌年の日本アカデミー賞協会特別賞を受賞。著書に、『映画の荒野を走れ プロデューサー始末半生記』（インスクリプト、2015）がある。